機械器具　０３　医療用消毒器
管理医療機器　小型液体用高圧蒸気滅菌器（コード：４１４５００２０）　特定保守管理医療機器

ハイクレーブ　ＨＧ－Ⅱ

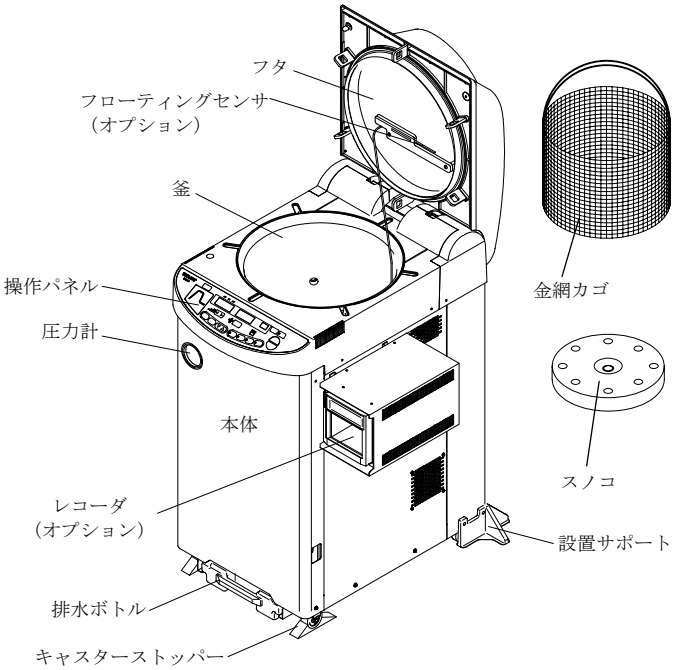
【警告】
- **圧力が異常に上昇した場合は、電源を直ちに切断すること。［爆発のおそれ］**
- **本機器、滅菌物は高温になるので、十分注意すること。［火傷のおそれ］**

【禁忌・禁止】
- **大気圧以上でフタを開けないこと。［障害を負う可能性がある］**
- **揮発性・引火性物質を入れて使用しないこと。［爆発のおそれ］**

【形状・構造及び原理等】

１．構造

本品は本体と附属品で構成されている。本体の附属品として排水ボトル、金網カゴ、スノコ、キャスターストッパー、設置サポート（ＨＧ－８０Ⅱのみ）がある。



２．電気的定格

製品名	ＨＧ-５０Ⅱ	ＨＧ-８０Ⅱ
電源電圧 周波数 消費電力（入力電流）	AC100V±10%単相 50/60Hz 2.0kW(20A)	AC200V±10%単相 50/60Hz 3.8kW(19A)
電撃に対する保護の形式による分類	クラスⅠ機器	

３．動作原理

滅菌物をチャンバ内に入れて、「スタート」スイッチを押下すると、モータによりフタが自動的に閉まり、高圧蒸気滅菌の運転が開始され、チャンバ内に供給されている水が電気ヒータにより加熱され、水蒸気が徐々に発生する。

その水蒸気の圧力により、チャンバ内の空気がボールバルブを通り冷却タンクに行き、冷却された空気が排水ボトルから外気に排出される。その後、ボールバルブが閉じ、チャンバ内を密閉状態にする。電気ヒータが継続して水を加熱し、滅菌温度になると滅菌タイマが作動し高圧蒸気滅菌動作を実施する。

滅菌動作終了後、電気ヒータが設定に従って切断され、常温である元の状態に戻っていく。「フタ開」スイッチを押下すると、フタが自動的に開き、滅菌物が取り出せる。

オプションのフローティングセンサを使って、その位置での温度条件によって、滅菌タイマを作動させることが可能である。

【使用目的又は効果】

高圧を有する蒸気を容器内に発生させ湿熱を利用し医療に使用する器具機材等を滅菌すること

【使用方法等】

１．設置環境

①屋内使用
②周囲温度　5～40℃
③相対湿度　温度 5～31℃の場合、80%RH 以下
　温度が 31℃以上の場合、40℃において相対湿度 50%まで直線的に減少する湿度　（ただし結露しないこと）
④海抜 2000m 以下（ただし 800m を超える場合は、仕様変更が必要となる。）
⑤左、右側とも 10cm 以上、後側 12cm 以上空けて、水平で 120kg 以上の耐荷重がある場所に設置すること
⑥取扱説明書の「第２章 設置　１.設置条件」を参照。

２．設置方法

①冷却タンクに注水する。
②電源コードを定格電源に接続する。
③主電源スイッチを「入」にする。
④取扱説明書の「第３章 操作方法」を参照し、フタを開け、附属品を取り出し、主電源スイッチを「切」にする。
⑤設置サポートを取り付ける。
⑥本体が動かないようにキャスターをキャスターストッパーにのせる。
⑦スノコを釜内に入れる。
⑧排水ボトルを取り付ける。
⑨主電源スイッチを「入」にする。

３．操作方法

①操作パネルの「電源」スイッチを押し、電源を投入する。
②操作パネルの「フタ開」スイッチを押下することにより、フタが自動的に開く。
③チャンバ内に水を注入する。ただし、オプションの自動給水装置が付いている場合は注水不要。
④滅菌物をチャンバ内に入れる。ただし、オプションのフローティングセンサを使用する場合は、フローティングセンサの先端の感温部を滅菌物の中央に入れる。
⑤用途に合わせ「コース」スイッチにより、コース、メモリー番号を選択する。
⑥「設定」スイッチにより、滅菌温度、滅菌時間を要求される数値に変更する。
⑦「スタート」スイッチを押下する。それにより、高圧蒸気滅菌の動作は設定したモードに従って、自動運転となる。
⑧高圧蒸気滅菌終了後、圧力計が「0MPa」に降下していることを確認し、「フタ開」スイッチを押下し、フタを開ける。
⑨安全な温度になっていることを確認して、滅菌物を取り出す。

取扱説明書を必ずご参照下さい。

【使用上の注意】

1．重要な基本的注意

①本製品では、法廷危険物、酸、アルカリ成分を含有する物質の滅菌は絶対に避けること。
②塩分及び食塩培地との塩分の多い液体が釜内に噴きこぼれた場合は、釜内の水は排出すること。そのまま放置すると釜及び配管の腐食を招き、爆発事故の原因となる。
③圧力が「０MPa」に降下していることを確認してからフタを開けること。

2．一般的な注意

①廃棄物処理バッグ等の袋を使用し滅菌する場合は、金網カゴに入れて釜内に収容する事。袋のまま収容すると過温、過圧、空だきなどの原因となる。
②本体のフタ内面に、収容する容器の口を接触させない事。
③フタを閉めるときに、フタで手を挟まないように気をつける事。
④フタの開閉時はフタやフタカバーに手を触れない事。
⑤滅菌完了直後にフタを上げると、釜口より蒸気が出るので手や顔を近づけない事。
⑥液体は温度が下降するまでにはかなりの時間がかかり、火傷の原因となるので液体の温度が十分に下降していることを確認してから取り出す事。
⑦釜内に圧力がある状態では、排水ボトルの取り外し及び釜内の排水は行わない事。熱湯及び蒸気が噴き出し、火傷をする恐れがある。
⑧排水ボトルの取り出しは、ボトル内の水が十分に冷えたことを確認後実施する。

【保管方法及び有効期間等】

1． 保管方法

①屋内に保管すること。
②相対湿度　温度 5～31℃の場合、80%RH 以下
温度が 31℃以上の場合、40℃において相対湿度 50%まで直線的に減少する湿度　（ただし、結露しないこと）
③水、薬品がかかる場所や、腐食、爆発性ガスの発生する場所は避けること。

2．耐用期間

①適切な使用環境、使用条件下において 8 年間［自己認証（当社データ）による］
ただし、使用環境、使用状況、により変わる。

【保守・点検に係る事項】

1．使用者による保守点検事項

①釜内　　1 日に 1 回、水を含ませた布で釜内、ガスケットを清掃する。
1 日に 1 回、釜内の水を交換する。
②定期自主検査　1 年以内ごとに 1 回、附属の自主検査確認書をもとに各主要部品の検査を実施する。
（ボイラー及び圧力容器安全規則で規定）
③再使用時　　しばらく使用しなかった後、再度使用する場合は附属の自主検査確認書をもとに各主要部品の検査を実施する。

2．業者による保守点検事項

①定期点検　　1 年以内に 1 回、以下の項目を含む定期点検を行うこと。
設置状況、周囲環境
釜内温度測定
絶縁抵抗
電気部品

②定期交換部品

部品名称	交換周期
ガスケット	2 年
シリコンホース	3 年
排水ボトル	4 年
空だき防止装置	4 年
安全弁	4 年
主電源スイッチ（ブレーカ）	4 年

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者　：　株式会社平山製作所
埼玉県春日部市豊野町２丁目６番５号
（０４８）７３５－１２４１

製造業者　：　株式会社平山製作所
埼玉県春日部市豊野町２丁目６番５号
（０４８）７３５－１２４１

取扱説明書を必ずご参照下さい。